

Encourage & Company

皆さんこんにちは。
エンカレッジアンドカンパニーの堀です。

私は中国の故事成語に長い間ハマっています。
そのキッカケは中学生の頃に、三国志の登場人物の生き様をビジネスに応用するという本を本屋で見かけた時から始まりました。

このコラムでは、中国の故事成語について、我々の日常に何か応用できないか、という観点でシリーズとして書き綴って行こうと思います。
題名は「中国故事成語をビジネスに応用する」とします。

第1回目は「牛耳る」です。

我々は牛耳ると聞くと、何かネガティブな印象を受けます。
何か悪い人に支配された感覚ですね。

時は中国の春秋戦国時代（今から 2,500 年ぐらい前）、
一応周王朝という中央政権があったものの、その名の通り、沢山の王が群雄割拠する戦国時代でした。

徳を以て天下を治める者を「王者（周王朝を指す）」と呼ぶのに対し、
実力および諸侯の信を得て天下にその名を知らしめた君主を「覇者」と呼びました。

つまり、王の中の王が覇者となったのです。その強大な力をもった覇者は約 200 年間で 5 名おり、春秋五覇と呼ばれます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%98%A5%E7%A7%8B%E4%BA%94%E8%A6%87>

覇者が群雄割拠の他の王を集め同盟を結ぶ際、
覇者が牛の耳を切り、他の王がその血を吸って忠誠を誓い、牛耳を執ったのです。
これが「牛耳る」の語源です。

悪い人に支配されたというより、名ばかりになってしまった周王朝が形式的な中国の支配者であるのに対し、実質的な支配者が覇者であり、牛耳るは実にフォーマルな儀式だったわけですね。

堀 洋三